

あすまち [公共計画編]
ハンドブック
こおりやま

郡山市まちづくり基本指針

2018-2025
The Plan for the Future of Koriyama



| | |
|--|-----------|
| プロローグ 「郡山市まちづくり基本指針」とは | 01 |
| 1. プロローグ | 01 |
| 2. 基本指針の特徴 | 02 |
| 3. 市民が描いた「公共計画 ¹ 」としての共通指針 | 06 |
| 第1章 変化し続ける課題への対応 | 11 |
| 1. 郡山市の現状（市民の実感と第五次総合計画の評価） | 11 |
| 2. 予見可能性の高い課題への対応（将来の年表） | 14 |
| 2025年問題など予見可能性の高い課題からのバックキャスト ² | |
| 第2章 ともに目指す未来 | 16 |
| 1. 将来都市構想策定のコンセプト | 16 |
| 2. 郡山市の目指す未来（将来都市構想） | 17 |
| 3. 未来実現に向けた分野別将来構想 | 18 |
| ● 大綱Ⅰ「産業・仕事の未来」 | 19 |
| ● 大綱Ⅱ「交流・観光の未来」 | 23 |
| ● 大綱Ⅲ「学び育む子どもたちの未来」 | 27 |
| ● 大綱Ⅳ「誰もが地域で輝く未来」 | 31 |
| ● 大綱Ⅴ「暮らしやすいまちの未来」 | 35 |
| ● 横断的取組 | 39 |
| ● 基盤的取組 | 40 |
| 第3章 市民が描く市民のための基本指針 | 41 |
| 1. あすまち会議参加者の「マイ・プロジェクト ³ 」 | 41 |
| 2. あすまちエリアディスカッション ⁴ での意見 | 42 |
| 資料集 | 43 |

1 公共計画：地域社会全体が策定主体として、地域が進むべき方向性などを示す官民共通の指針。

2 バックキャスト：将来構想や目標から振り返って何をすべきか考える手法。未来からの発想法。

3 マイ・プロジェクト：個人の想いと社会課題解決を結びつけ、「自分事化」する手法。

4 エリアディスカッション：地区における懇談会の英訳。他自治体でも、「エリアミーティング」等と呼称することが多い。

「郡山市まちづくり基本指針」とは

1. プロローグ



**「まちづくりに正しい答えはない。楽しい答えを描こう」
「未来を知りたければ自ら未来を創ろう」**

2016（平成28）年10月に開催した市民会議「あすまち会議こおりやま」で、参加者である市民の皆さんにお送りしたメッセージです。

この想いに呼応するかのように、「誰も一人ぼっちにならないまち」「学びたいことを思いっきり学べるまち」といった、心を強く打つようなリアルで共感できる将来構想が市民の皆さんによって語られました。そして、その将来構想を実現するために、市民一人ひとりの「想い」や「願い」に根ざした力強いアク

ションを考え、小さな一歩をともに踏み出しました。

地域づくりに関係の無い市民はいません。同じ未来を目指す市民一人ひとりの小さなアクションが理想の未来を生み出していくのです。

「一尺を開けば一尺の仕合わせあり、一寸を墾すれば一寸の幸あり」

先人の鍬の一振りが未開の安積原野を切り拓いたように、明日の郡山を創り出すのはフロンティア・スピリット⁵にあふれた私たち郡山市民です。

5 フロンティア・スピリット：進取、自由の精神。開拓者魂。安積原野を切り拓いた郡山市民に脈々と息づいている気性。

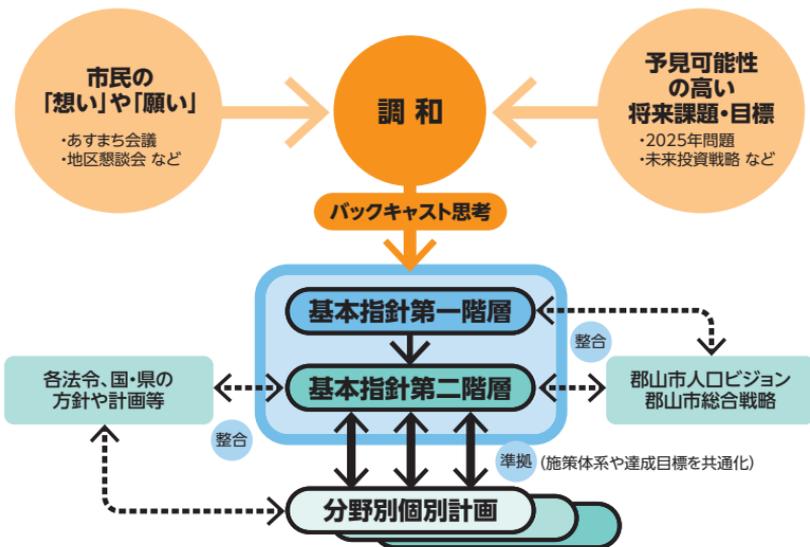
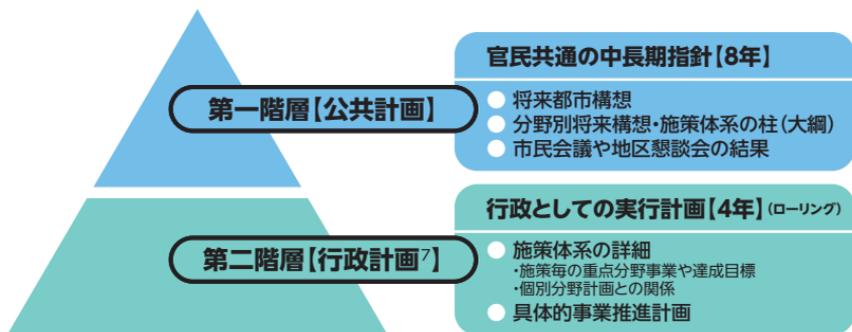
2. 基本指針の特徴

(1) 郡山市まちづくり基本指針 全体構成

本基本指針は、中長期指針と実行計画の二階層で構成されており、基本指針の期間は4年を基礎単位として、第一階層の「公共計画」は8年間（目標年度：2025年度）、第二階層の「行政

計画」は4年間の計画期間とします。

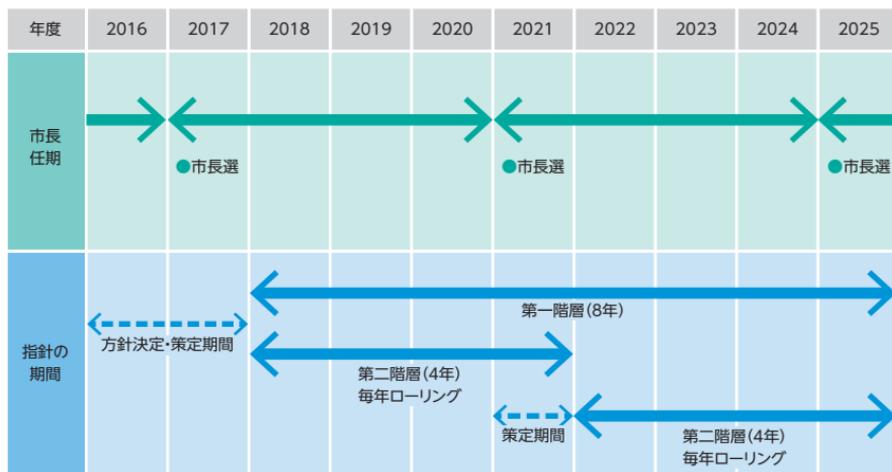
なお、行政計画は社会経済情勢の変化や国の新たな制度等にも柔軟に対応するため、毎年のローリング⁶により見直します。



6 ローリング：中長期的な計画を作成した後、社会経済情勢など環境変化に対応して計画内容を定期的に見直すこと。

7 行政計画：行政が計画の策定主体として定める、将来像実現に向けた具体的な取り組みのロードマップ。

(2) 郡山市まちづくり基本指針の計画期間



(3) 基本指針策定における3つのポイント

- ① 構成を簡素化・明快化(公共計画と行政計画の2階層に区分)
- ② 実効性の強化・機動性の確保(市長任期に合わせた4年単位)
- ③ 公平な市民参加(無作為抽出による選定等新たな市民参加手法)

① 簡素で分かりやすい二階層の構成

基本指針の構成については、行政だけでなく、市民や事業者も含めた本市全体の将来都市構想を示す「公共計画」と、行政として将来目標実現のために展開する各種施策、事務事業やその達成目標を示すロードマップ⁸としての「行政計画」の二階層の構成としています。

② 安定性と機動性の絶妙なバランス

長期的な将来都市構想を定めると同時に、人口動態や社会経済情勢に応じて、重点事業や達成目標などを見直すことや、国の法令改正への対応など、柔軟性を兼ね備えた基本指針とする必要があります。そのため、市長任期である4年を基本に定期的な見直しを図り、安定性と機動性を兼ね備えたバランスの良い基本指針とします。

8 ロードマップ：事業の推進など物事を展開させていく過程を示した行程表。

③ 市民参加機会を拡充し、ともに未来を創る

今回の基本指針策定にあたっては、普段なかなか行政と関わりを持っていない大多数の市民の皆さん（サイレント・マジョリティ⁹）にも積極的に参加していただくため、無作為抽出した市民3,000名に直接通知をお送りして参加いただいた市民会議「あすまち会議 こおりやま」や、地域住民同士が地域

資源や将来に向けた展望を議論し合う場としての地区懇談会「あすまちエリアディスカッション」を開催するなど、様々な新しい仕掛けにより、市民の「想い」や「願い」を何よりも大切にされた基本指針策定に取り組んできました。



9 サイレント・マジョリティ：物言わぬ多数派。公の場で声高に発言することは無いが、実は世論の多数を占める勢力。

(4) 市民が関わり続け、使い続けられる基本指針として

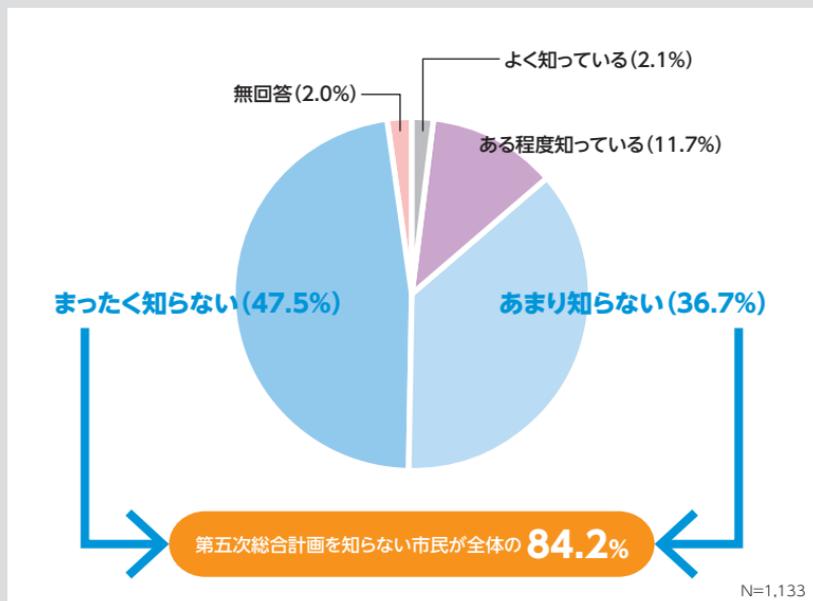
2016（平成28）年度に実施した市民意識調査¹⁰で、本市最上位計画であった「郡山市第五次総合計画」の認知度は、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせても13.8%にとどまり、「まったく知らない」が47.5%、「あまり知らない」と合わせると実に84.2%にもなることが分かりました。

新たな「郡山市まちづくり基本指針」では、官民共通の将来都市構想を策定するとともに、市長の任期と連動

することで、市政に対する関心が高まるタイミングで見直しができるように配慮しました。

また、策定後の市民参加機会拡充にも積極的に取り組み、策定過程で参加者一人ひとりが考えた「将来構想実現のための小さなアクション」を市民が広く共有し、日々実践するための基本指針として機能させていくことが重要だと考えています。

郡山市第五次総合計画の認知度



平成28年度 市民意識調査報告書

10 市民意識調査：本市が毎年実施している市政全般に対する市民アンケート。本市が実施する施策の満足度や重要度を調査している。

3. 市民が描いた「公共計画」としての共通指針

本指針では、「あすまち会議こおりやま」、「あすまち会議こおりやま2」や「あすまちエリアディスカッション」により、「市民がともに目指す未来」を描きました。行政だけでは発想できない

ような豊かなイメージと市民一人ひとりの「想い」や「願い」が詰まった未来を実現するために、市民それぞれが担い手として「コレクティブ・インパクト¹¹」を誘発することを目指しています。

郡山市まちづくり基本指針策定経緯

| 2016 (平成28) 年度 | | |
|----------------|-------------------------|---------|
| 4月 | 基本指針策定方針決定 | |
| 5月～ | 市民会議開催準備 | |
| 9月 | 平成28年度わかもの創生会議 | |
| 10月 | 「あすまち会議こおりやま」 | 将来構想検討 |
| 11月 | 平成28年度市民意識調査 | 市民意向調査 |
| 2月 | 「あすまちエリアディスカッション」 | 地域課題分析 |
| 3月 | 《郡山市まちづくり基本指針骨子(案)》 | |
| 2017 (平成29) 年度 | | |
| 4月～ | 市民会議開催準備 | |
| 7月 | 「あすまち会議こおりやま2」 | 将来構想具体化 |
| 8月 | 第五次総合計画の評価と検証 | 取組のレビュー |
| | 平成29年度わかもの創生会議 | |
| 9月 | 《郡山市まちづくり基本指針素案作成》 | |
| 10月～ | 郡山市まちづくり基本指針審議会 | 素案の精査 |
| 12月～1月 | パブリックコメント ¹² | |
| 2月 | 《郡山市まちづくり基本指針策定》 | |

※ 庁内会議「郡山市まちづくり基本指針策定委員会」等を随時開催

※ 議会への説明会等についても適宜開催

※ チャレンジ市役所「新発想」研究塾、こおりやま広域圏幹事会等についても反映

11 コレクティブ・インパクト：集合知による課題解決。様々な主体がお互いの強みを出し合い社会的課題の解決を目指す手法。

12 パブリックコメント：国や地方自治体などが規則あるいは計画等を策定する際、広く公表した上で意見を求める手続き。

(1) 市民会議「あすまち会議こおりやま」2016(平成28)年10月～11月



市民会議「あすまち会議こおりやま」では、いわゆる「サイレント・マジョリティ」にも配慮し、18歳以上の市民から無作為抽出した3,000人に開催通知を送付し、18歳から80代まで、のべ200名を超える市民の皆さんが参加し対等な話し合いをしました。

会議では、システム思考¹³の手法である「ループ図¹⁴」により、将来構想を整理し、また、担い手意識を醸成し、具体的なアクションに結びつけるため「マイ・プロジェクト」の手法により、一人ひとりに何ができるのか考えました。

① キックオフミーティング¹⁵ 2016(平成28)年10月2日(日)

② 市民ワークショップ¹⁶ 2016(平成28)年10月6日(木)～30日(日) 全5回

「産業・仕事の未来」「交流・観光の未来」「学び育む子どもたちの未来」「誰もが地域で輝く未来」及び「暮らしやすいまちの未来」の5つの分野別ワークショップを開催し、分野別の提言としてまとめました。



③ ラップアップミーティング¹⁷ 2016(平成28)年11月6日(日)

「市民会議からの提言」及び、各分野別での話し合いを整理した「ループ図」を市長に提出しました。参加者相互インタビューにより、それぞれの「想い」や「願い」をお互いに確認しました。



13 システム思考：問題を構造を持ったシステムとして捉え、要素間の因果関係に着目して原因究明を行うもの。

14 ループ図：目標達成までの因果関係を整理し、今何をすべきかを明確にするもの。

15 キックオフミーティング：新たなプロジェクトを開始させる際、顔合わせや情報共有等のために行う最初の会議。

16 ワークショップ：主催者からの一方的な情報伝達ではなく、参加者が主体的に学びあい議論しあうことで結論を導き出す会議の手法。

17 ラップアップミーティング：プロジェクトの最後の取りまとめのための会議。

(2) 地区懇談会「あすまちエリアディスカッション」2017(平成29)年2月



地区懇談会「あすまちエリアディスカッション」では、小学生や中学生も含む300名を超える皆さんに参加していただき、生まれ育った地域の歴史と思い出を振り返り、未来に残したい地域の宝を洗い出すとともに、未来のためにより良くしたい地域の課題などについて話し合いました。

懇談会は14の行政センター及び旧市内の全15地区で開催し、インターネットテレビ会議システム¹⁸により隣り合う3地区同士の意見を共有しながら進めました。

(3) 市民会議「あすまち会議こおりやま2」2017(平成29)年7月



基本指針スタートまで1年を切った2017(平成29)年夏、これまでの議論を具体的かつ明確な将来構想として結実させるため、「あすまち会議こおりやま2」を開催しました。

「あすまち会議こおりやま2」では、「あすまち会議こおりやま」の参加者に加えて、新たに公募により全市民から参加者を募り、のべ約260名の参加により開催しました。

18 インターネットテレビ会議システム：遠隔地での対面コミュニケーションを可能とする情報システム。

将来構想としてまとめる段階に移る
今回のワークショップでは、これまでの
市民会議等で話し合われた分野別の将
来構想を提言としてまとめました。提
言にあたり、単なる「提言書」として市
長に手渡すだけではなく、市民が主体
的に策定過程を歩んできたこの1年余
りの集大成として、参加した市民自ら
が分野別将来構想を演じ、表現する機
会とすることにしました。

分野別将来構想を具体的な登場人物
による生きいきとしたストーリーとして
描くため、吉本興業の福島県住みます
芸人である「ぺんぎんナッツ」の実演指
導により、参加者がストーリーの中に
入り込んで未来の市民のセリフや心の
動きを体感しながら考え、それぞれの
持ち味を発揮する「コレクティブ・イン
パクト」を誘発するものとなりました。



① キックオフミーティング 2017 (平成29) 年7月1日 (土)

島根県立隠岐島前高校魅力化プロジェクトをはじめとする地域活性化の取り組みを実践する藤岡慎二氏の特別講義により、地域の課題発見や解決の手法についてヒントをいただきました。



② 市民ワークショップ 2017 (平成29) 年7月8日 (土) ~14日 (金) 全3回

吉本興業の福島県住みます芸人「ぺんぎんナッツ」による漫才教室形式での実演指導も受けながら、「あすまち会議こおりやま」をベースにストーリーを構築しました。



③ ラップアップミーティング 2017 (平成29) 年7月22日 (土)

市長、副市長をはじめ、職員、市議会議員、参加者の家族や友人、その他多くの市民の皆さんにご来場いただき、未来ストーリーを上演しました。



変化し続ける 課題への対応

1. 郡山市の現状(市民の実感と第五次総合計画の評価)

(1) 郡山市の現在の姿

郡山市の現状を知る

既に日本は少子高齢・人口減少社会に突入しています。

郡山市でも2015(平成27)年度に「郡山市人口ビジョン¹⁹⁾」及び「郡山市総合戦略²⁰⁾」を定め、将来人口推計に基づいた様々な対策を講じています。また、市民の皆さんが生まれ育った地域で安心して生活できるためには、地域経済を支える産業構造や、教育・子育て・医療福祉や安全・安心の取り組みといった市民生活の現状をふまえた取り組みが重要です。

ア 人口動態

本市の人口は、2004(平成16)年の339,248人をピークに、東日本大震災直後の人口急減からしばらくは回復基調にありましたが、2016(平成28)年度から再び減少傾向と

なっており、震災の影響を踏まえた将来人口推計として、2040年には281,147人となると予測しています。特に若年層の転出と出生率の低下が顕著であり、郡山市人口ビジョンでは、「子育て世代の純移動率²¹⁾」及び「合計特殊出生率²²⁾」の改善により、将来的にも人口30万人規模を維持することが福島県の中核都市である本市の使命であると捉えています。

生産年齢人口(15～64歳)及び年少人口(0～14歳)については、全国的な少子化、首都圏等への人口流出の影響により長期的な減少が予測されており、現実的には、こうした社会情勢に対応した、持続可能な地域社会の構築に向けた施策の展開が求められています。



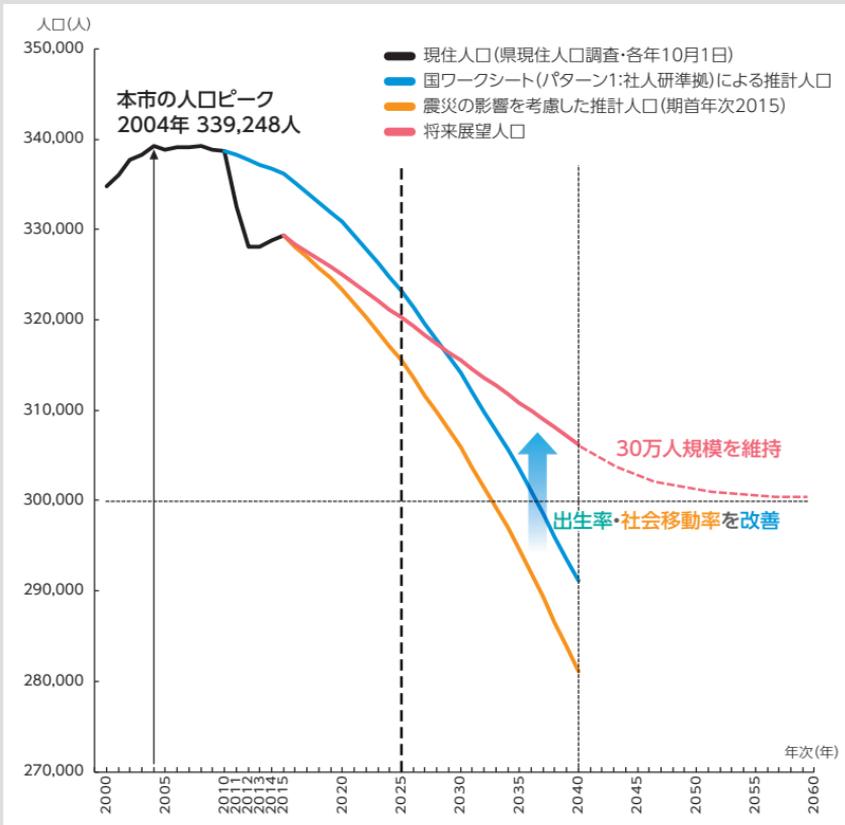
19 郡山市人口ビジョン：2040年度を目標とする本市人口の将来展望及びその実現のための方向性などを示すもの。

20 郡山市総合戦略：2015年度から5年間における本市の「まち・ひと・しごと創生」の方向性などを示すもの。

21 純移動率：特定の時期、場所における移入民と移出民の差を表す人口統計学の用語。

22 合計特殊出生率：15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。

郡山市の将来推計人口と将来展望人口の比較



単位：人

| | 2010年 | 2015年 | 2020年 | 2025年 | 2030年 | 2035年 | 2040年 |
|-------------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 国ワークシート (パターン1:社人研準拠) による推計人口 | 338,712 | 336,217 | 330,824 | 323,241 | 314,131 | 303,492 | 291,079 |
| 震災の影響を踏まえた 推計人口 | 338,712 | 329,270 | 323,368 | 315,503 | 305,956 | 294,668 | 281,147 |
| 将来展望人口 | 338,712 | 329,270 | 324,948 | 320,225 | 315,491 | 310,859 | 306,226 |

郡山市人口ビジョン(2016.2)

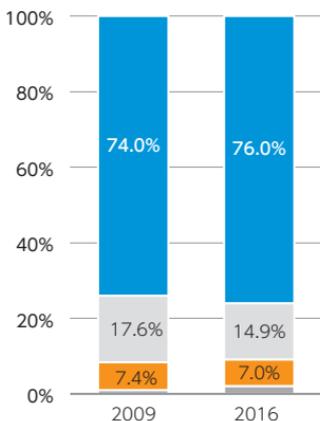
イ 生活実感

2009（平成21）年度から本市が実施している市民意識調査によると、郡山市を「住みやすい」または「どちらかといえば住みやすい」と評価している市民は74%～76%程度でこの8年間ほぼ変化がありません。また、今後も郡山市に住みたいか

という設問では、「ずっと住み続けたい」、「市内の別の地域に住みたい」を合わせた割合も概ね66～70%程度で、この8年間ほぼ増減がなく、郡山市の住みやすさについては、比較的高い評価を維持していると思われる。

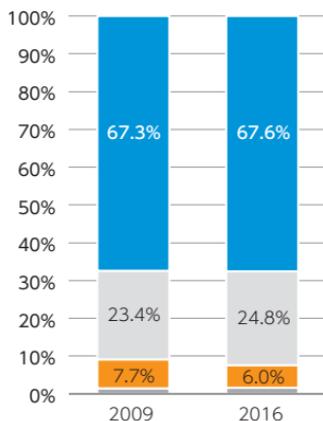
市民意識調査による郡山市の住みやすさ評価

郡山市は住みやすいまちか？



- 住みやすい・どちらかといえば住みやすい
- どちらともいえない
- 住みにくい・どちらかといえば住みにくい

郡山市に今後も住みたいか？



- 市内に住み続けたい
- 市内の別の地域に住みたい
- どちらともいえない
- 住み続けたくない
- 無回答

郡山市市民意識調査

2. 予見可能性の高い課題への対応(将来の年表)

予見可能性の高い課題への積極的対応

既に到来している少子高齢・人口減少社会を背景として、将来的に起こり得る予見可能性の高い課題が多く指摘されています。

そのため、これらの課題に対して今できることを考えるバックキャストの手法により、様々な取り組みを打ち出すことが求められています。

① 主に人口減少に起因する課題

※2017(平成29)年時点での見込みを記載しており、不確定の項目もあります。

| 年度 | 項目名 |
|------|--|
| 2018 | 18歳人口の急激な減少により大学の倒産件数が増加 |
| 2019 | 2019年度の5,307万世帯をピークに日本の総世帯数が減少局面に入る |
| 2020 | 50歳以上の女性人口が49歳以下を上回り、出産可能な年齢人口が激減 東京都の人口がピークを迎え、全ての都道府県で人口減少局面に突入 |
| 2021 | 団塊ジュニア世代 ²³ 高齢化による介護離職等に伴い企業の人材不足が深刻化 |
| 2022 | 独居高齢者世帯が増加し、全世帯の1/3超がひとり暮らし世帯となる |
| 2023 | 団塊ジュニア世代が50代となり企業の人件費負担がピークとなる 空き家率が全国で21.1%程度に上昇 |
| 2024 | 死亡者数が年間150万人を超え、死亡者数が出生者数の倍になる |
| 2025 | 2024年度までに団塊の世代 ²⁴ が全て後期高齢者になり社会保障財政負担が増大 |

23 団塊ジュニア世代：1971(昭和46)年から1974(昭和49)年までに生まれた世代。第二次ベビーブーム世代とも呼ばれる。

24 団塊の世代：1947(昭和22)年から1949(昭和24)年に生まれた世代。

② 各省庁等が掲げる年次目標及び直接的な人口減少以外の課題など

※2017（平成29）年時点での見込みを記載しており、不確定の項目もあります。

| 年度 | 項目名 |
|------|--|
| 2018 | 国民健康保険財政運営を市町村から都道府県に移管[厚生労働省] 国民投票の投票権年齢が「満18歳以上」に[総務省] 学校休業日の分散等を目的とした「キッズウィーク」を設定[未来投資戦略] 新幼稚園教育要領、新保育所保育指針、新幼保連携型認定こども園教育・保育要領施行[文部科学省] コメの生産調整（減反政策）廃止[農林水産省] |
| 2019 | 消費税率10%に引き上げ[国税庁] 下水道及び簡易水道事業を重点事業とした公営企業会計適用の推進[地方行政サービス改革の推進に関する留意事項] |
| 2020 | 世界に先駆けた5G ²⁵ の商用サービス開始[経済産業省] 指導的地位の女性の割合30%目標[内閣府男女共同参画局] 訪日外国人旅行者数4,000万人など観光ビジョンの目標[観光庁] 公共データオープン化 ²⁶ の集中取り組み期間終了[内閣官房] 東京オリンピック・パラリンピック開催 小学校新学習指導要領施行[文部科学省] 大学入試制度改革[文部科学省] 行政手続コスト2割削減目標[未来投資戦略] 復興庁の廃止[復興庁] 温室効果ガス排出量を2005年度比で3.8%削減[環境省] 障がい者の地域生活支援拠点等を各市町村または各圏域に1件以上整備[厚生労働省] |
| 2021 | 中学校新学習指導要領施行[文部科学省] |
| 2022 | 高校新学習指導要領施行[文部科学省] PPP/PFI ²⁷ 事業規模21兆円目標[未来投資戦略] ベンチャーキャピタル ²⁸ 投資額対名目GDP比を2015年度比で倍増[未来投資戦略] |
| 2023 | コメ生産コスト2013年度比で4割削減目標[未来投資戦略] 農業法人経営体数5万件目標[未来投資戦略] |
| 2024 | 年金受給年齢の段階的引き上げ[厚生労働省] |
| 2025 | 厚生年金支給開始年齢の引き上げ（男性）※女性は2030年[厚生労働省] ICT ²⁹ 等の活用により建設現場の生産性を2割向上[未来投資戦略] 大学等への企業からの投資額をOECD諸国平均以上目標[未来投資戦略] 水素ステーションを全国に320箇所程度整備[環境省] |

25 5G：第5世代（次世代）の移動通信システム。IoT時代に対応した高速で遅延の少ない方式。

26 公共データオープン化：行政が有するビッグデータを二次利用可能なルールで公開すること。

27 PPP/PFI：公共サービスを提供する際、官民の連携により提供を担う手法。

28 ベンチャーキャピタル：未上場企業等に投資を行い、投資先企業の成長、価値向上を図るもの。

29 ICT：情報処理や通信に関する技術、サービス等の総称。

1. 将来都市構想策定のコンセプト

「共有」・「共感」・「共奏」で多様な 人とつながるまち
一人ひとりの「想い」や「願い」が 未来とつながるまち
「魅力」と「活力」で 世界とつながるまち
希望を紡ぎ 次の世代とつながるまち

ICTを活用し、
Society5.0に
対応したスマート
でグローバルな
地域経営

「自分事」としての
コレクティブ・インパクト
の誘発による
主体的でクリエイティブ
な地域環境

復興・創生の実現、
連携中枢都市圏の
形成など、リーディ
ングシティとしての
都市責任

市民総活躍で
誰もが輝く
地域社会の創造

市民の
安全な生活を守る
セーフコミュニティ
の推進

市民の
「想い」や「願い」と
予見可能性の高い
課題との調和



2. 郡山市の目指す未来(将来都市構想)

「みんなの想いや願いを結び、
未来(あす)へとつながるまち 郡山」
～課題解決先進都市 郡山～

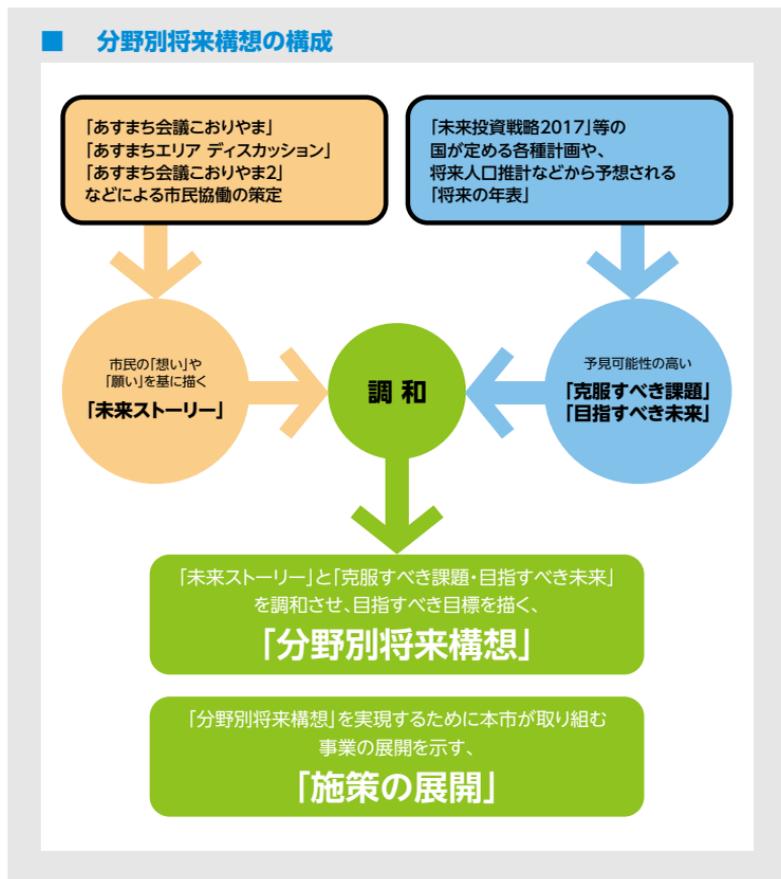


3. 未来実現に向けた分野別将来構想

将来都市構想の実現に向けて、各分野における具体的な取組項目と達成目標を定め、スピード感を持って取り組んでいきます。

分野別将来構想については、市民会議「あすまち会議こおりやま」、「あすまち会議こおりやま2」での市民によ

る話し合いをベースとしています。「自分事³⁰」として思い描いた、8年後の郡山市のストーリー(未来ストーリー2025)と、市民生活の実感に直結した生きいきとした政策体系として整理しました。



30 自分事：他人事ではなく、まさに自分に関わりのある事柄として当事者意識を持つこと。

「産業・仕事の未来」

商業・工業・雇用・農林業分野



市民の「想い」や「願い」を基に描く 「未来ストーリー2025」

パソコンと工作好きの小学五年生「イチロー」。勉強はあまり得意ではないけれど学校の発明工夫コンテストでは何度も賞をもらっています。

夏休みに大好きな祖父の家に行き、祖父が手塩にかけて育てた大きなスイカを食べるのを毎年楽しみにしています。しかし、高齢と人手不足のためスイカ栽培をやめざるを得ないという話を聞き、イチローは自分の特技を生かして何とかできないかを考えようと思ひ、夏休みが終わり、学校の先生にも相談しながら考えた、高齢者や障がい者をサポートするロボットを、市が主催する「あすまちビジネスコンテスト³¹2025」に出展することを決めます。このビジネスコンテストは、年齢に関係なく市民であれば誰でも提案することができ、市内外の企業や金融

機関とマッチングできるイベントとして注目を集めていました。精一杯プレゼンするイチローのビジネスプランに大手IT企業が興味を示し、事業化に向けた支援と融資を決定、郡山市初の小学生社長が誕生することになります。

さらに、民間人材登用が一般的となった郡山市役所では、長年農業に携わってきたイチローの祖父もアドバイザーとして就任、イチローのアイデアは日本大学工学部との共同研究により製品化され、クールな農業として若手就農者の増加や食料需給問題解決の一助となります。

ビジネスコンテストで得られた市内外とのネットワークは、鯉料理の開発など、今後の産業振興にもどんどん発展していきそうです。

31 ビジネスコンテスト：新事業創出支援として、参加者が新たなビジネスのモデルを考案し、競うコンテスト。

分野別将来構想

1. みんなが誇れる「郡山といえばこれ!」という産業があるまち
2. 楽しくてやりがいのある満足できる仕事のあるまち
3. 農林業が盛んで、市民の身近な産業となるまち

施策の展開

I 産業・仕事の未来

1 みんなが誇れる「郡山といえばこれ!」という産業があるまち (商工業振興・企業誘致・流通・起業支援)

「オール郡山」と呼べる産業や名産品がある
市民が市の産業や物産を熟知し、誇りを持つことができる
市民生活に寄り添った身近な商業が発展している
世界に通用する産業技術が発展・集積している
自己実現を果たすことのできる魅力ある企業がある
市民一人ひとりのアイデアを具体化できる機会がある

2 楽しくてやりがいのある満足できる仕事のあるまち (雇用・就労環境)

郡山で学んだ人、郡山で働きたい人が希望の仕事に就職できる
よりよい労働環境のもと、誰もが楽しく、気持ちよく仕事することができる
市民が誇りにできる地元産業が活性化している
新しい技術や社会の変化に対応できる人材育成が図られている

3 農林業が盛んで、市民の身近な産業となるまち (農業振興・林業振興・6次産業化)

農林業が快適で魅力的なものとなる
農林業の高付加価値化、効率化が図られている
若い農業従事者や後継者など次の世代の担い手が増える
日常生活や学校などで地域の農林業に親しむ機会がたくさんある



「交流・観光の未来」

交流・文化・観光・広聴広報・シティプロモーション分野



市民の「想い」や「願い」を基に描く 「未来ストーリー2025」

JR郡山駅前で姉と買物をする5歳児「しおのすけ」。そこに、道に迷った外国人「アリー」が現われます。その日は「音楽のまち」として世界的に有名になった郡山市が開催する大規模な音楽フェスが開成山公園で開催され、国内外から多くの人が集まってきました。

二人は普段から学校などで、地域の歴史や郡山の観光振興に向けた取り組みを学んでおり、市民観光コンシェルジュ³²としての腕前を試そうと、アリーを開成山公園まで案内しながら、郡山市の観光について説明することにします。

街並みは沿道の店舗や市民たちの手によって季節の花々が咲き乱れ、また、街の雰囲気や歩行者の交通量などを感知して、イメージに合った音楽が流れるなど、気持ちよく街歩きができる環境が整備されていてアリーは驚き喜びます。2025年には、郡山

市はセーフコミュニティ³³の取り組みも進み、日本一きれいで安全なまちになっています。

開成山公園に向かう途中には「しおのすけ」の祖母が働く地元スイーツの店があり、クリームボックスや郡山産食材を使った特産品を味わうことができます。開成山公園の周辺には安積疏水の歴史を伝える水路などがあり、観光検定を毎年受けている「しおのすけ」は、アリーに安積開拓の歴史や今も息づく安積疏水の恵みについて紹介します。

無事に開成山公園に着いたアリーは、楽しく歩いて移動できる美しい街並みや、子どもたちがまちの歴史や観光物産に詳しい市民観光コンシェルジュとして活躍するなど、おもてなしの心に満ち、また、市内外から文化が集まり交流するまちに発展した郡山市をSNS³⁴などでさらにPRし、世界に発信していくのです。

32 観光コンシェルジュ：ホテルで宿泊者の要望に応えるコンシェルジュから転じ、観光案内を担う人材を指す。

33 セーフコミュニティ：地域社会全体で怪我や事故を予防する活動を行い、安全・安心と認められた地域。国際認証制度である。

34 SNS：ソーシャル・ネットワーキング・サービス。人と人のつながりを促進するコミュニティ型のサービス。

分野別将来構想

1. 人が交流し、明るい声が聞こえるまち
2. 国内外に発信できる、自慢の地域資源があるまち
3. たくさんの人が「また来たい」、「住んでみたい」と思えるまち

施策の展開

II 交流・観光の未来

1 人が交流し、明るい声が聞こえるまち (都市間交流・国際交流)

みんなが集まれる場所が様々な地域にある
様々な世代、地域の人と訪れる人との交流が盛んである
生きいきとしたまちの雰囲気がある
広域的で円滑な人の移動が可能であり、目的地に快適にアクセスできる
住む人や訪れる人にとって魅力的な街並みと人の生活がある

2 国内外に発信できる、自慢の地域資源があるまち (歴史・文化財・文化芸術振興・物産振興・地域の誇り)

まちの歴史や文化を市民がよく理解し、親しみを持っている
音楽のまちにふさわしい音にあふれたまちになる
子どもたちが、自分たちのまちに誇りと愛着を持つ
地域の食や農を生かした魅力ある産品がある

3 たくさんの人が「また来たい」、「住んでみたい」と思えるまち (シティプロモーション・観光・コンベンション³⁵・広域観光・移住促進)

期待した以上のちょっとした感動やおもてなしがある
各地域の資源を生かした、きれいで出かけたくなる観光地が増える
地域の産業等を生かした先進的なコンベンションが多く開催される
インバウンド³⁶にも対応した、市民やまちのおもてなしレベルが向上している
移住希望者にとって魅力的な人が暮らし、快適な環境が整っている
便利で安全、そして快適な広域交通の拠点となっている
多様な観光ニーズに対応し、近隣市町村と連携した広域的な観光戦略がある

35 コンベンション：企業の展示会や学会等の学術会議、国内外の研究者が集う国際会議等。

36 インバウンド：入ってくるものという意味から転じて外国(区域外)から訪れる旅行を指す。



「学び育む子どもたちの未来」

子育て・教育・地域学習分野



市民の「想い」や「願い」を基に描く 「未来ストーリー2025」

大学進学と音楽の道、いずれの進路にも関心はあるが、それぞれに課題があり悩む女子高生「しずく」。目指す大学は学費が高額であり、地元で音楽を学ぼうにも専門的に教えてくれる人は不足していて、誰に相談すればいいかも分かりません。

ある日、開成山公園でバイオリンの練習をするおじいちゃんに出会い、進路に悩んでいる話をします。その時は何も答えることができなかつたおじいちゃんですが、数日後、市内のNPO法人が主催する「郡山の未来を創る交流会」に参加し、地域の若者が直面する課題として、その時に聞いた内容を参加者たちに話してみました。すると参加者の中から、市が最近設立した奨学基金の情報が出されるなど、具体的な支援に向けた議論が活発化します。基金に対して寄付を申し出る地

元企業経営者や、若者に音楽などを教えるための民間人材バンクの設立など、参加者たちが共同で支援をすることに。

後日、また開成山公園で再会した「しずく」とバイオリン弾きのおじいちゃん。奨学金制度の拡充が図られたことや、音楽を地元の人に教えてもらえるようになったことを喜ぶ「しずく」に、実は自分も子どもたちにバイオリンを教えるようになったことを明かすおじいちゃん。

子どもたちがそれぞれの興味・関心を伸ばし、やりたいことを諦めることなく挑戦できるよう、社会全体で応援し、大人たちも自分の特技や学んできたことを社会や若者に還元できる、そんな「知」の好循環が2025年の郡山市では当たり前ものとなっています。

分野別将来構想

1. 人と人とがつながり、みんなで子どもたちを育むまち
2. 笑顔があふれ、未来への夢を育むまち
3. 一人ひとりの個性を伸ばし、すべての子どもが輝くまち
4. 子どもたちが学びたいことを楽しく学び、地域で活躍できるまち

施策の展開

Ⅲ 学び育む子どもたちの未来

1 人と人とがつながり、みんなで子どもたちを育むまち (乳幼児教育・家庭教育・子育て支援・少子化対策)

子どもたちの未来を育む多様で充実した乳幼児教育ができる
家庭、地域、企業、そして子育て・教育機関が連携し、子育てや教育を学びあう
すべての人が安心して仕事と子育ての両立ができる
地域社会全体が安全・安心な環境で教育や子育てに関われる
子育て世代の仕事や収入が安定し、安心して結婚、出産ができる

2 笑顔があふれ、未来への夢を育むまち (青少年健全育成・子どもの安全・安心・遊び場)

子どもたちが地域で安心して元気に遊ぶことができる
明るい雰囲気のみちで、子どもたちが健全に伸び伸びと育っている
子どもたちが学校や地域で夢中になれるものを見つけることができる

3 一人ひとりの個性を伸ばし、すべての子どもが輝くまち (学校教育・教育環境・高等教育連携・産学官連携)

子どもたちが興味あることを自ら学び伸ばすことができる
子どもたちの個性を伸ばす質の高い学校教育が整っている
身近に高等教育機関との連携による高度な教育環境が整っている
地域人材等の活用により、社会全体でスポーツや芸術文化活動などの専門指導ができる

4 子どもたちが学びたいことを楽しく学び、地域で活躍できるまち (地域学習・図書館・読書活動)

子どもたちが学んだことを地域の課題解決に生かし活躍できる
地域の産業、生活・文化的環境、歴史、自然環境などを学べる場がある
子どもたちが地域への愛着や一体感を感じることができる



「誰もが地域で輝く未来」

市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野



第24回 郡山シティーマラ

市民の「想い」や「願い」を基に描く 「未来ストーリー2025」

ヨーク開成山スタジアムで高校野球が繰り広げられる暑い夏の日、体を動かすことが大好きで、毎日ウォーキングを楽しむおばあちゃん「みちこ」は、孫と一緒にスタジアムで一休みしています。

飛んできたファールボール³⁷で「みちこ」は軽い怪我をしますが、普段から運動をしているため、周囲の心配をものともしない健康ぶりでみんなを圧倒します。スタジアムに野球の応援に来ていた女子高生や、偶然居合わせた鍼灸師の青年たちは、その元気の秘密に興味津々です。「みちこ」はダイエットに興味のある女子高生や、普段から室内での仕事が多く、趣味も運動ではなく機械いじりだという鍼灸師の青年も半ば強引に誘い、2ヵ月後に郡山市主催で開催されるウォーキング大会に出ることを約束しました。

2ヵ月後、大会会場で再会した面々は、ウォーキングコースの整備や市民クラブの存在など、市民の健康促進に対する取り組みが思ったより充実している現状を知り、楽しく体力づくりに励んできた結果、全員が無事に完走しました。趣味の機械いじりを我慢してきたという青年ですが、運動だけではなく、それぞれの趣味や特技を生かした様々な市民講座が開催されており、講師として人に教えることもできるということを知り、あらゆる分野での生涯学習が盛んで市民が輝けるまちになっていることを実感しました。

市内各地で様々なスポーツイベントや文化活動が開催され、地域や世代を超えて人のつながりができ、老若男女がいつまでも健康で生きいきと暮らせる取り組みがどんどん広がっています。

37 ファールボール：野球やソフトボールで打球がフェアゾーンに入らなかったもの。観客に当たることもあり注意が必要。



分野別将来構想

1. 市民生活に活気があり、地域で楽しく元気に暮らせるまち
2. 好きなこと、得意なことを地域で学び生かせるまち
3. 市民が互いに支えあい、一人ぼっちにならないまち
4. 誰もが健康で生きいきと暮らせるまち
5. 女性が元気で活躍できるまち



施策の展開

Ⅳ 誰もが地域で輝く未来

1 市民生活に活気があり、地域で楽しく元気に暮らせるまち (市民協働・地域コミュニティ)

一人ひとりの知識や経験、個性に応じた、多様な社会参加ができる
様々な世代、地域の人が交流する場所や機会がある
やりたいことを地域の仲間と交流しながら楽しめる

2 好きなこと、得意なことを地域で学び生かせるまち (生涯学習)

生涯を通じて、様々な音楽やスポーツを楽しめる環境がある
自己実現を促す集まりがたくさんあり、お互いに学び教えあうことができる
様々な文化・スポーツ活動を許容する自由な雰囲気がある

3 市民が互いに支えあい、一人ぼっちにならないまち (地域福祉・国民健康保険・介護保険・国民年金)

日常生活のなかで人とのつながりがあり、不安なく暮らすことができる
住み慣れたまちですずっと暮らすことができる
地域で支えあえる社会保障制度が構築されている

4 誰もが健康で生きいきと暮らせるまち (高齢者福祉・障がい者福祉・健康づくり・保健医療)

誰もが無理せず、お互いに支えあうことができる
お年寄りや障がい者、子どもに優しい文化が育まれている
健康づくりに必要な情報や活動が身近にあふれている
多様なニーズに適確に応えられる地域医療が整っている

5 女性が元気で活躍できるまち (男女共同参画)

女性リーダーを発掘、育成する体制がある
男女問わず参加できる学習機会やイベントがある
結婚や出産後も継続して就業できるなど、男女格差の是正が図られている
DVやパワーハラスメントなど人権問題の解消が図られている

「暮らしやすいまちの未来」

環境・防災・市民安全・生活インフラ分野



市民の「想い」や「願い」を基に描く 「未来ストーリー2025」

JR郡山駅前にランニングシューズを買いに来た熱海町在住の85歳のおばあちゃん。買物も終わり、帰ろうとすると急に激しい雨が降ってきます。急いで屋根のある駅前バスターミナルに駆け込みますが、雷まで鳴り出し、公共交通機関の状況が心配です。空を見上げていると、孫が通う小学校に勤めるAET³⁸の先生と出会います。

災害情報や交通情報を知りたい二人は、市内各所に配置されている情報ロボット「ロボガクト」を見つけます。ロボガクトは行政や民間事業者、市民団体などが持つ、郡山市に関するあらゆる情報を提供しながら、道路の清掃活動や治安維持のための監視活動などもこなすマルチロボットです。二人が天候やバスの運行情報をロボガクトに尋ねると、もうすぐ雨はやみ、目的地行きのバスも多少の遅れはあるものの、あと10分ほどで到着すると回答します。しばらくすると雨もやみ、別の

場所で雨宿りをしていたおばあちゃんの息子と孫も合流します。ゴミを捨てようとゴミ箱を探すと、素早くロボガクトが回収し、さりげなく郡山がリサイクル率全国1位の環境先進都市であることをアピールします。他にも、市内のイベント情報やサークル活動情報など市民が必要な情報がいつでも手に入ります。

バスも到着し、家路へと向かう一行ですが、息子と孫がバスに乗ろうとすると、おばあちゃんは新しいランニングシューズで熱海町の自宅まで走って帰ると言い出します。郡山市は超高齢化社会の到来に備え、段差が無く、歩行者に優しい道路整備を市内全域で進めてきました。その結果、2025年には、市内全域がマラソンやサイクリングに適した、歩行者や環境に優しいまちとして、世界的なマラソン大会も開催されるなど、移動しやすく、災害にも強いまちになっているのです。

38 AET：アシスタント・イングリッシュ・ティーチャー。英語教師とチームで授業を行う外国人講師。

分野別将来構想

1. 環境にやさしく自然豊かな、住んでよかったなと思えるまち
2. 誰もが安心して快適に暮らせるまち
3. すべての人が安心して円滑に移動できるまち
4. 豊かなまちなみがあり、誇りと魅力あふれるまち



施策の展開

V 暮らしやすいまちの未来

1 環境にやさしく自然豊かな、住んでいてよかったなと思えるまち (エネルギー・生活環境・自然環境・ごみ対策・不法投棄対策)

資源が循環する低炭素で持続可能なまちづくりに取り組んでいる
再生可能エネルギー、新エネルギー³⁹を積極的に取り入れている
多様な動植物が生息できる自然環境が残っている
きれいで清々しい水や空気が守られている
まちと自然が共存し、環境を思いやる人がたくさんいる

2 誰もが安心して快適に暮らせるまち (消防・防災・市民安全・浸水対策・治山治水)

自然災害に強く防災体制が整っている
治安が良く犯罪防止に向けた市民の助け合いがある
市民誰もがセーフコミュニティ活動に取り組んでいる
ユニバーサルデザイン⁴⁰に配慮された、身近な暮らしの環境が整っている

3 すべての人が安心して円滑に移動できるまち (交通体系・公共交通・広域交通)

地域に人が集まる場所があり自由に行き来できる
歩行者や自転車も含め、事故防止に向けてハード・ソフト両面で取り組んでいる
市民のニーズに応じた買物や通勤など交通の利便性が高い

4 豊かなまちなみがあり、誇りと魅力あふれるまち (都市計画・街路道路橋りょう・住環境・上下水道・公園)

郡山市のシンボルとなる「まちの顔」があり、活気があり人が集まっている
魅力的な景色や街並みが日常的にある
散歩したくなる安全で快適な道路や公園がある
中心市街地も周辺部もそれぞれ特色を生かして栄えている

39 新エネルギー：新エネルギー法に定められる、バイオマス、太陽熱、雪氷熱利用エネルギーなど。

40 ユニバーサルデザイン：文化、言語、老若男女といった差異に関わらず多くの人々が利用しやすいような施設、製品、情報等のデザイン。

横断的取組

復興・創生の更なる推進

【取組方針】

分野横断的な取り組みとして、東日本大震災からの復興及び原子力災害からの生活環境の回復を継続的に推進し、市民や避難者の生活、生業の再生、除染による除去土壌等の中間貯蔵施設への輸送を計画的に推進します。

併せて、空間放射線量率の定期的な測定、内部被ばく検査や食品検査等、放射性物質に関する徹底した情報収集及び「除染情報ステーション」などによる積極的な情報発信に努め、市民の不安解消を図ります。

また、本市産業への風評払しょくにも引き続き取り組むとともに、本市に集積する医療機器関連産業などの強みを活かした競争力の高い産業の誘致・育成や、鯉などをはじめとした地域産品の高付加価値化を図るなど、復興の先を見据えた先駆的な地方創生の取り組みを一層推進します。

【取組の展開】

- 除去土壌等の計画的な輸送に取り組みます。
- 放射線に関する徹底した情報収集と積極的な情報発信を図ります。
- 県や近隣市町村とも連携した本市産業への風評払しょくに取り組みます。
- 地域の強みを生かした先駆的な復興・創生の取り組みを推進します。



基盤的取組

行政経営の効率化 (カイゼン、ICT・DG推進《スマート市役所》)
 セーフコミュニティ活動の推進
 連携中枢都市圏構想⁴¹の推進

【取組方針】

地方を取り巻く財政環境や雇用環境も一層厳しさを増している中、継続的な行政運営のためには、持てるリソースを活用し最大限のパフォーマンスを発揮する必要があります。

そのため、ICTを最大限に活用した効率的で利便性の高い行政システムの構築や、ファンドレイジング⁴²等の新たな手法による財政の健全化、将来人口フレーム等を見据えた適切な社会資本マネジメントの推進など、行政の基礎体力向上に努めます。

また、市民の安全・安心のため、地域社会全体の協働により、国際基準のセーフコミュニティ活動の推進にも率先して取り組みます。

併せて、近隣地域も含めた圏域全体の経済活性化や公共サービスの効率化等を目指す「連携中枢都市圏構想」の推進にも、近隣市町村との密接な連携により取り組みます。

【取組の展開】

- ICTを活用した、効率的で先進的な行政経営の改善を図ります。
- 官民連携により、様々な手法やノウハウを柔軟に導入します。
- 地域社会全体でセーフコミュニティ活動を推進します。
- 「連携中枢都市圏構想」の推進により、広域的な課題解決を図ります。



41 連携中枢都市圏構想：一定要件を満たす連携中枢都市と近隣市町村との連携協約により圏域の活性化を図る構想。

42 ファンドレイジング：活動、事業実施に必要な資金を個人、法人、政府などから集める行為の総称。

市民が描く 市民のための基本指針

本章では、基本指針策定に向けて開催した市民会議「あすまち会議こおりやま」や地区懇談会「あすまちエリアディスカッション」で市民の皆さんからいただいた意見を掲載します。

※本章で示す意見一覧等は市民の皆様からいただいた意見であり、参加者の生のご意見を尊重するため、原文のままで掲載しています。

1. あすまち会議こおりやま参加者の「マイ・プロジェクト」

「マイ・プロジェクト」とは？

自分自身の想いとながかり、心から望む社会を実現するために「自分事」として具体的なアクションを考え実践する手法です。

参加者それぞれが考えた、理想の未来を実現するために挑戦する「小さな取り組み」の例を掲載します。

- 笑いで人と人を繋ぐ。
- 子どもに様々な経験をさせたい。
- 誰にでもやりがいがある環境づくりのために何ができるか考える。
- 子どもたちが安心して暮らせるように暗いところなどをチェックする。
- 大人でも子どもでも挨拶をちゃんとする。
- 元気で楽しい生活を送るため、日々普通の生活を続ける。
- 一人ぼっちにならないよう、家族を連れて外に出たい。
- 住みよいまちの基本に戻りゴミ拾いを実行する。
- なるべく移動は自転車を使う。
- 全ての情報を受身ではなく自ら知ろうと行動に移していきたい。
- 自分たちで新たな仕事を作れるような環境をつくりたい。
- 自分の体験を子どもに教えていく。

- 自分が経験してきた苦労や失敗、成功体験などを子どもに話す。
- 大人としてしっかり叱ったり褒めたりできるようにする。
- 孫たちとも一緒に芋ほりや収穫を楽しむ。

- 通学路を通る時はスピードを落とす。
- 公共施設の運営をサポートできるような「良き利用者」となる。



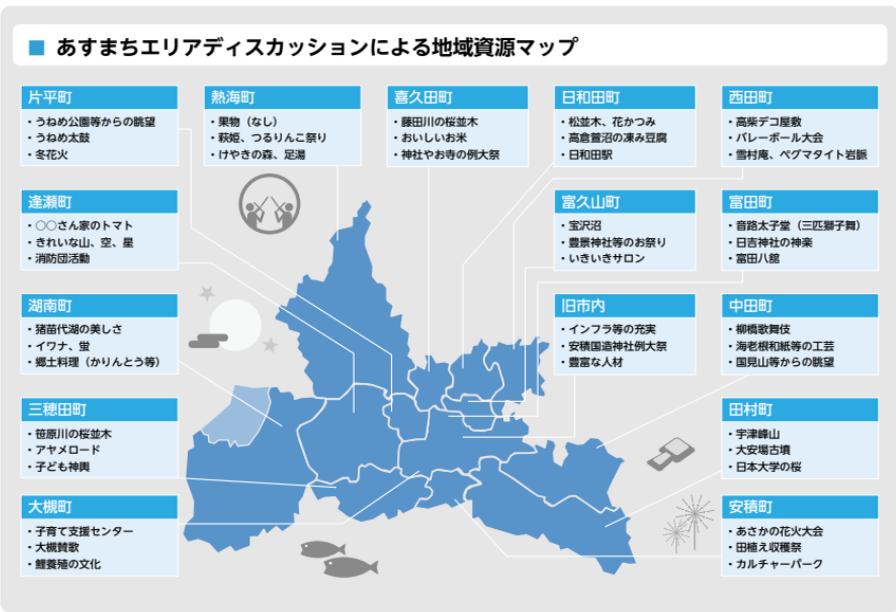
2. あすまちエリアディスカッションでの意見

●地域資源マップ

地区懇談会(あすまちエリアディスカッション)では、みんなに自慢できる地域の誇り、未来に残したい地域資源についても話し合いました。

各地域とも、地域住民の参加や協力により継続している伝統行事や子ども

神輿などについては大切に次の世代に残していきたいと考えており、併せて近年になって新たに始まった地域のイベントも、季節の風物詩として盛り上げていきたいとの意見が多く見られました。



資料集

基本指針策定の手法

郡山市まちづくり基本指針の策定は、市民一人ひとりが地域の将来を創る担い手として参加できるよう、様々な手法を取り入れました。地域活動や事業立案などの参考としてご活用ください。

(1) 市民討議会⁴³ プラヌクス・ツェレ(あすまち会議こおりやま)

- ・社会的かつ公益的な課題をテーマとする
- ・参加者は地区の住民から無作為で抽出する
- ・有償で一定期間、責任ある主体として参加する
- ・中立的な立場でファシリテーション⁴⁴をする
- ・専門家などからの情報提供により学習する
- ・少人数グループでの、参加者のみによる討議で意思決定する

(2) ワークショップの基本的な手法

- ・主催者も親しみやすい服装(スーツは厳禁)
- ・グループメンバーは参加した市民のみで構成する(主催者が誘導しない)
- ・お菓子ブースなどを用意し、くつろげる場をつくる
- ・オシャレなBGMを流して雰囲気づくりをする
- ・一人で考える時間も設けて、しっかり意見を出し切る
- ・模造紙と付箋と水性マーカーをたくさん準備し、何でも書く
- ・アイスブレイク⁴⁵など、リラックスできる仕掛けを設ける
- ・基本ルール(否定しない、参加者は平等など)は厳守させる

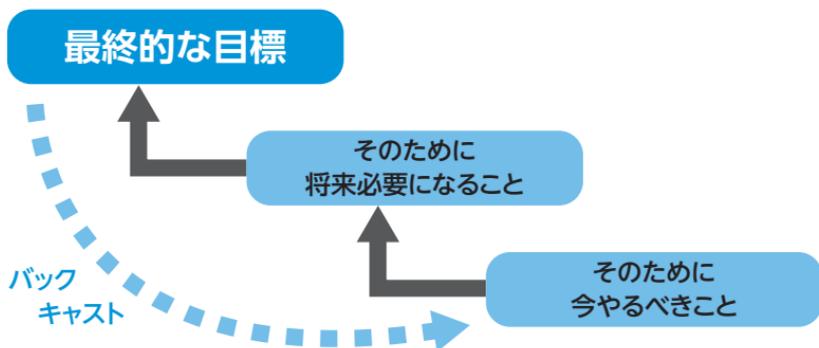
43 市民討議会：ドイツで考案された市民参加の手法である「プラヌクス・ツェレ」。直訳すると「計画細胞」とも。参加者を母集団から無作為抽出で選ぶ、参加者に報酬を支払い責任ある立場として参加してもらう、専門的な情報を提供する、少人数グループによる討議で結論を出す、会議の過程や結果を公表する、などの特徴がある。今回開催した市民会議「あすまち会議こおりやま」はこの手法で実施。

44 ファシリテーション：会議の合意形成や活性化を促進させること。

45 アイスブレイク：ワークショップの冒頭などで初対面の人同士の緊張をほぐすための手法。

(3) システム思考による整理

システム思考は、要素間の因果関係に着目して整理する手法です。今回は、手法の一つである「ループ図」により、理想とする将来像からバックキャストして今の私たちにできることを考えました。



(4) マイ・プロジェクトによる「自分事」化

「マイ・プロジェクト」は、社会的課題をそのまま受け取るのではなく、個人の「想い」や「願い」と社会との関わり方を整理し、自分事として課題を捉え、解決法を考える手法です。



(5) ストーリーテリング⁴⁶、プロトタイピング⁴⁷、ロールプレイング⁴⁸

デザイン思考⁴⁹に基づく手法であり、あすまち会議こおりやま2で、各分野の将来構想を具体的なストーリーとして描くために導入しました。

デザイン思考は、課題解決にあたり、実践的かつ創造的な方法を志向する考え方であり、発散と収束を繰り返すことで多くの可能性の中から最適解を発見するなど、今日では一般的となっているワークショップなどの元となる考え方です。

「ストーリーテリング」では、具体的な登場人物を想定し、イメージしやすいストーリーを描きました。また、一連のストーリー作成を短期間に集中して行い、他のグループと相互に意見交換をして修正を重ねるなど、「プロトタイピング」の手法も導入しました。そして、市への提言として、参加者自らがストーリーの登場人物を演じる「ロールプレイング」による実践を通して相互理解を深めました。



46 ストーリーテリング：伝えたいことを印象的な体験談やエピソードなどの物語により伝える手法。

47 プロトタイピング：製品開発で用いられる試作手法。試作とテストを繰り返し速やかなフィードバックを得るもの。

48 ロールプレイング：ストーリーの役割を想定し演じることで深い理解を得る手法。

49 デザイン思考：定義、研究、アイデア出し、プロトタイプ化、選択、実行、学習の7段階からなる思考法。一般に発散と収束を繰り返すことで多くの可能性の中から最適解を発見する方法であり、ワークショップ等に用いられる。

郡山市まちづくり基本指針策定経過(2016(平成28)年4月～)

| 年度 | 月 | 市民参加 | 議会 | 庁内 |
|---------------|-----|--------------------------|--------|------------------------|
| 2016 (H28) | 4月 | | | ・策定方針決定 |
| | 5月 | | | ・庁内担当者会議 |
| | 6月 | | | |
| | 7月 | | | ・分野別計画調整 |
| | 8月 | | | |
| | 9月 | (わかもの創生会議) | ・会長会説明 | ・庁内担当者会議・庁議 |
| | 10月 | ↓ あすまち会議こおりやま | | |
| | 11月 | ↓ (市民意識調査) | ・会長会説明 | |
| | 12月 | | ・会長会説明 | ・庁内担当者会議・庁議 |
| | 1月 | | ・会長会説明 | ・庁議 |
| 2017 (H29) | 2月 | ↓ あすまちエリアディスカッション | ・会長会説明 | |
| | 3月 | | | ・フレーム案作成 |
| | 4月 | | ・会長会説明 | |
| | 5月 | | ・会長会説明 | ・担当者会議・検討委員会 ・策定委員会 |
| | 6月 | | | ・担当者会議 |
| | 7月 | ↓ あすまち会議こおりやま2 | ・会長会説明 | |
| | 8月 | (わかもの創生会議) | | ・素案作成 |
| | 9月 | | ・議員説明会 | ・担当者会議・検討委員会 ・策定委員会 |
| | 10月 | ↓ 郡山市まちづくり 基本指針審議会 | | |
| | 11月 | | | (全庁調整) |
| | 12月 | ↓ パブリックコメント | ・議員説明会 | ・策定委員会 |
| | 1月 | | | ・策定委員会 ・庁議 |
| | 2月 | 郡山市まちづくり基本指針 完成 | | |
| 3月 | | | | |

あすまち会議こおりやま（詳細は本誌7ページ参照）

| 開催概要 | 開催日(2016年) | 参加者数 |
|--------------------------|------------|------|
| キックオフミーティング(事務局説明) | 10月 2日(日) | 58名 |
| 第1回ワークショップ「産業・仕事の未来」 | 10月 6日(木) | 21名 |
| 第2回ワークショップ「交流・観光の未来」 | 10月 13日(木) | 18名 |
| 第3回ワークショップ「学び育む子どもたちの未来」 | 10月 16日(日) | 24名 |
| 第4回ワークショップ「誰もが地域で輝く未来」 | 10月 22日(土) | 20名 |
| 第5回ワークショップ「暮らしやすいまちの未来」 | 10月 30日(日) | 25名 |
| ラップアップミーティング(市長への報告) | 11月 6日(日) | 42名 |

あすまちエリアディスカッション（詳細は本誌8ページ参照）

| 開催地域(会場) | 開催日(2017年) | 参加者数 |
|------------------|------------|------|
| 安積(安積行政センター) | 2月 7日(火) | 22名 |
| 田村(田村行政センター) | | 21名 |
| 中田(中田ふれあいセンター) | 2月 9日(木) | 11名 |
| 逢瀬(逢瀬コミュニティセンター) | | 19名 |
| 三穂田(三穂田ふれあいセンター) | | 25名 |
| 湖南(湖南行政センター) | 2月 10日(金) | 29名 |
| 富久山(富久山行政センター) | | 30名 |
| 日和田(日和田地域交流センター) | | 11名 |
| 西田(西田ふれあいセンター) | | 24名 |
| 喜久田(喜久田ふれあいセンター) | 2月 15日(水) | 28名 |
| 片平(片平ふれあいセンター) | | 12名 |
| 熱海(熱海行政センター) | 2月 16日(木) | 25名 |
| 旧市内(郡山市役所) | | 39名 |
| 富田(富田公民館) | | 21名 |
| 大槻(大槻ふれあいセンター) | | 24名 |

あすまち会議こおりやま2 (詳細は本誌8ページ参照)

| 開催概要 | 開催日(2017年) | 参加者数 |
|---------------------------|------------|------|
| キックオフミーティング(特別講義) | 7月 1日(土) | 57名 |
| 第1回ワークショップ | 7月 8日(土) | 42名 |
| 第2回ワークショップ | 7月 11日(火) | 40名 |
| 第3回ワークショップ | 7月 14日(金) | 44名 |
| ラップアップミーティング(寸劇による市長への報告) | 7月 22日(土) | 76名 |

郡山市まちづくり基本指針審議会

| 開催回次 | 開催日(2017年) | 主な審議内容 |
|--------|----------------------|---|
| 第1回全体会 | 10月10日(火) | <ul style="list-style-type: none"> ・委嘱状交付 ・会長及び副会長の選出、分科会の設置 ・市長から審議会へ素案を諮問 ・策定経緯など全体概要説明 |
| 第1回分科会 | 10月10日(火) | <ul style="list-style-type: none"> ・分科会会長の選出 ・分野別の素案について説明、審議 |
| 第2回分科会 | 10月23日(月) ～25日(水) | <ul style="list-style-type: none"> ・第1回分科会及びその後の意見への対応状況説明 ・第五次総合計画と基本指針の施策体系対応説明 ・第五次総合計画の評価と検証について審議 ・分野別将来構想及び施策の展開について審議 ・基本指針全体について審議 |
| 第3回分科会 | 11月6日(月) ～10日(金) | <ul style="list-style-type: none"> ・第2回分科会及びその後の意見への対応状況説明 ・行政計画の構成及び概要について説明 ・分野別将来構想及び施策の展開について審議 ・基本指針全体について審議 ・分科会意見集約について審議 |
| 第2回全体会 | 11月27日(月) | <ul style="list-style-type: none"> ・第3回分科会及びその後の意見への対応状況説明 ・各分科会意見・提言報告及び審議 ・基本指針への反映状況について審議 |
| 答 申 | 12月5日(火) | <ul style="list-style-type: none"> ・審議会から市長へ答申 |

郡山市民の意見公募に関する手続(パブリックコメント)

実施結果

2名の方から3件の意見をいただきました。

あすまち**こおりやま**
2018-2025
The Plan for the Future of Koriyama
郡山市まちづくり基本指針
[公共計画編]ハンドブック

2018年 2月

編集・発行 郡山市

お問い合わせ
TEL.024-924-2021 FAX.024-924-2822
Mail:seisaku-kaihatsu@city.koriyama.lg.jp

あすまちこおりやま

検索

表紙写真提供 株式会社 スペースワン